



Rekitomo Newsletter

【報告】

「國學院大學博物館を訪ねる」に参加して

山田 美由紀

11月24日、日曜日。東京に向かうために長岡駅で引率してくれる人と待ち合わせです。なぜなら今回の旅行は現地集合現地解散という、私にとっては高度なミッションだからです。不安を抱えているおのぼりさんがいるという事で、友の会の旅行の添乗員を長らく勤めていて下さった山本さんが、長岡から私達を引率してくれると連絡がありホッとしました。長岡駅の近くの駐車場に車を停めて、長岡駅まで歩きます。改札前に私たち参加者を引率してくれる人が待っていてくれるはず…。やったー！山本さんだ！「お久しぶりです。よろしくお願いします。」「なんで長岡に？」と尋ねると「皆さんを東京に連れて行くためです」とありがたいお言葉が…。申し訳ありません。車だったらどこにでも行ける気がするけれど、新幹線や電車は難しい。田舎者あるですね。

新幹線の席はありがたい引率者の山本さんの隣。通路の奥から山本さんに声が掛けられます。「山本さん、富士山は見える？あっちな？」いやいや、そんな所に見えないからと思いながら山本さんを窺うと「まだ見えませんよ。見えるようになったら教えます。」と優しい言葉が…。えっ？私の知っている山本さんではない。少しして「ほら、あれが富士山。見えますか？」…どうした…。と思っている内に到着です。



東京国立近代美術館前で記念撮影

新幹線を降り、人の多さに圧倒されながらも山本さんに続いて歩きます。駅を出てジャンボタクシーで国立近代美術館に向かいます。ドライバーさんからペットボトルの水とお手拭きのサービスがあり、なんだか嬉しい。ちょうど喉が渇いていたので、さっそくぐびぐびと飲みながら外の景色を楽しみます。ドライバーさんとの会話を楽しんでいると、あっという間に到着。

国立近代美術館前で現地集合の人たちと待ち合わせです。全員が揃ったところでチケットをもらい、それぞれが館内に散っていきました。企画展「ハニワと土偶の近代」を見て、自由見学時間の少なさに文句を言いながら駆け足で4階まで見て回りました。無事に集合時間に間に合い、さっき乗ってきた同じジャンボタクシーで國學院大學まで移動しました。

到着すると、すぐに見学ではなく、お昼の仕出し弁当（山本さんが美味しいとお墨付きの弁当）を美味しくいただきました。お腹もいっぱい、気持ちよくうとうとしながら、特別展「海底に眠るモンゴル襲来—水中考古学の世界—」を、池田先生から特別にお話をしていただきました。場所を移動してからも、引き続き池田先生に説明をしていただきながら見学をしました。ありがとうございました。



大好評だった昼食の「すみだ川季節弁当」



國學院大學博物館前で記念撮影



「海底に眠るモンゴル襲来—水中考古学の世界—」展

現地解散という事で、引率者とはお別れです。帰り道が心配でしたが、優しいお姉さんが「私についてきて」と声を掛けてくれたので必死にくっついて歩きました。バスに乗り、山手線、新幹線と乗り継ぎ、無事に長岡に帰ってくることが出来ました。東京駅で駅弁を買って帰ろうと思っていたのですが、そんな時間など全くありませんでした。残念。お土産はハニワ関係と東京バナナにひよこ。じゅうぶんか。

新潟県中越大震災 20 年 それでもわが大地を愛し続ける 開催報告

2024 年 10 月 23 日で、新潟県中越大震災から 20 年が経過。震災のおよそ半年後、復興を支援する展覧会を実施した当友の会としても、20 周年にあたり何らかの事業を行うべく考えておりました。そこで思い出されるのが、原田泰治先生作品のピエゾグラフ 14 点です。この作品群は、まさに当友の会が主催で実施した復興支援展覧会をきっかけに新潟県に寄贈され、新潟県立歴史博物館にて保管されてきたものです。そして、県内各地はもちろん、東日本大震災の復興のためにも活用され、多くの人々の心の足しとなってきました。

今回はその原田作品全点とともに、当時の復興支援展覧会でも公開され山古志の多くの方に届けられた片桐恒平先生の山古志の写真を、震災後の作品も併せて公開することとし、震災 20 年を機に、新たにわが大地・ふるさとを想ってもらうことを期待する展覧会といたしました。



展示風景

2024 年 12 月 3 日から翌 1 月 13 まで 31 日の会期で 911 人の方々にご覧いただきました。今後も新潟県中越大震災の記憶を継承すべく、各種事業に取り組みたいと思っております。会員の皆様におかれましては今後ともご協力のほどお願い申し上げます。

映画上映会「グリーン・ライーエコの嘘—」開催報告

2 月 8 日（土）、毎年恒例の映画上映会を開催しました。

普段何気なく口にしている食べ物。あたり前にスーパーに並んでいる食料品。そのあたり前をまさに当然のこととして意識せずに購入し、口にしているのが現実でしょうが、そのあたり前に警鐘を鳴らすのが、今回上映した「グリーン・ライーエコの嘘—」です。

本作品は、そういったあたり前に対して意識の変化を促すべく製作されたものですが、活動家と言われる人々の姿に同意もし、また逆に懐疑的になってしまうような、そういう場面が数多く映し出さ

れました。と言って、何もしないのであれば結局何も変わりません。少しでも良い方向へと進むべきなのは当然で、そのための上映となったわけです。

午前、午後2回の上映で、計40人の方にご覧いただきました。前日までの大雪で「延期はないのか？」との電話での問い合わせも多く、非常に迷わざるを得ない開催となりました。問い合わせの多さから、この映画が扱う社会問題への関心の高さがうかがえました。今後も社会問題に切り込む映画を探索し、上映できればと思っております。



映画上映会入口前

★★ レキハクから転退職される方、レキハクに異動される方 ★★

このたび、以下の方々が新潟県立歴史博物館から転退職されます。
これまでのご尽力に感謝いたします。

経営企画課 課長 山田 英範（近代美術館に転任）

経営企画課 主任 高野 奈央（農業総合研究所に転任）

学芸課 課長 浅井 勝利（退職）

新潟県立歴史博物館に赴任されるのは、以下の方々です。よろしくお願いいたします。

経営企画課 課長 荒木 雪子（内水面水産試験場から転任）

経営企画課 主任 砂山 明日香（中越教育事務所から転任）

学芸課 専門員 浅井 勝利（再任用）

今年度は多くの方々にご協力いただき、どうにか友の会の運営を進めることができました。誠にありがとうございました。

新年度も多くの方々に助けていただきながら、より良い運営を目指したいと思いますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

なお、新年度は「第21回 マイ・コレクション・ワールド」（2026年1月24日～3月22日）を計画しております。ふるってご参加ください。
（事務局）

新潟県立歴史博物館友の会会報 No.27

2025年3月31日発行

【事務局】新潟県立歴史博物館 経営企画課内
〒940-2035

新潟県長岡市関原町1丁目字権現堂 2247番2

TEL 0258-47-6135・6141 FAX 0258-47-6136

E-mail rekitomo2014@yahoo.co.jp